

日本地衣学会

No.80

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信	287
	雲南地衣類調査行2007(その1) / 原田 浩	287
	ニュース	289
	第22回 青空地衣教室(千葉-内浦山県民の森)のご案内 / 安齊唯夫・木下靖浩	289

会員通信 From Members

雲南地衣類調査行 2007 (その1)

A field trip for lichen study in Yunnan, China, 2007 (part 1) / by HARADA Hiroshi

原田 浩 (千葉県立中央博物館)

中国雲南省の10月は天候がよく暖かく、標高4000mを超える北西部山岳地帯の調査にはベストシーズンである。これに日程を合わせ、2007年10月に雲南において調査することとなった。これまでの4回の訪問では、そのつど新たな発見があった。今回は何が待っているのだろうか。

* * *

10月10日朝、成田を発ち、北京経由で夕刻には昆明に到着する予定である。希望としては大韓航空機を利用しソウル経由で行きたいところであったが、大韓航空便では日程が合わず、2005年1月に利用したときの印象が悪い北京経由となってしまった。そのときは、中国語ができない私は北京空港の係員にいろいろ聞いたがほとんど英語が通じず難儀をした記憶があったのだ。・・・しかし今回はずいぶん様子が変わった。英語はよく通じるようになっていた。来年の北京オリンピックに向けた準備はここ北京空港でも順調に進んでいるようである。ともあれ、予定していた中国国際航空の昆明行きの便が飛ばず、代わりに海南航空の飛行機に振り替えられることが北京空港のチェックインカウンターで判明したと

きにも、事なきを得た。

北京から昆明へは、西安上空を通る内陸を飛ぶ。北京を飛び立ちしばらくして雲の多いのが気になった。しかしまだ昆明は遠いから大丈夫だろうと思っていたが、その雲は途切れることなく延々と続いていた。果たして、昆明も曇っていた。その日は「雨が降った」と、昆明空港で迎えてくれた王さんが教えてくれた。「普通なら8月末には雨季は終わるが、今年に限ってまるで雨季がまだ続いているようである」とも。

またもや幸先が悪い。しかし私の帰国日程は既に決まって、予定通り出発するしかない。一日も早く雨季が明けのを待つのみである。

剣湖のほとりにて

10月12日、昆明を発ち小雨がちなか中、高速道路を大理まで飛ばす。そして洱海(アールハイ)を右に眺め北上し、本日の宿泊予定地である剣川(ジェンチュアン)に至る。まだ日が高いのですぐ近くの湖を訪れることにした。

湖の名は剣湖(ジェンフー)。王さんも初めて訪れる

のだという。細い道を抜け何とか湖のほとりに至った。折しも顔を出した太陽に照らされた風景は、私がこれまでに見た雲南とは違うものだった(図1)。心洗われるという表現があるが、そんな気持ちにさせられた。

これまで何度か雲南の湖のほとりに立ったことがあったが、いずれも山上湖であった。標高2200mとはいえ、剣湖の周りには広い盆地が広がり、そこには水田が



図1. 剣湖。沈水性の水草も多く、豊かな生物層と想像される。



図2. カラムツの枯れ枝は大型地衣で覆われていた。シャングリラの五鳳山にて。

多く、のどかな田園地帯といえる。・・・さて地衣類はというと、さっぱりであった。柳の幹にはこれといった地衣類はなかった。わずかに、水路と見られる古いコンクリート建造物にダイダイゴケ属*Caloplaca*と、チャシブゴケ属の*Lecanora muralis*が見られるのみであった。

高原の町 香格裏拉(シャングリラ)

今回の調査では、標高約3300mの高原にある町、シャングリラを拠点に周囲の高山を調査することが主な予定となった。その中でも、標高5396mの哈巴雪山(ハーバースユエシヤン)の登山がハイライトである。世界文化遺産で有名な町、麗江(リジヤン)のすぐ北にある標高5596mの玉龍雪山(ユエロンシユエシヤン)と、金沙江(ジンシャジヤン)を隔てて対峙する名峰である。しかし、車で行けるのは標高2000m位までであり、目的の森林限界付近に至るには7時間はかかるのだそうだ。王さんからその話を聞き、私は即座に不可能だと答えてしまった。しかし、昨年からは始まったハリガネキノリ属*Bryoria*の研究には、重要な場所であるには違いなかった。

翌10月13日、やや曇りがちの中、シャングリラに到着し昼食を済ませてなお時間が余った我々一行は、町外れの五鳳山(ウーフエンシヤン)を訪れた。ここは、私が初めて雲南を訪れた1994年にも来たことのある思い出深い場所である。麓には、見覚えのあるチベット仏教の小さな古びた寺院があった。近くのカラムツ林には、地衣が多かった。落ちていた枯れ枝(図2)に見えるように、樹状地衣ではサルオガセ属*Usnea*・ハリガネキノリ属*Bryoria*・カラタチゴケ属*Ramalina*、葉状地衣ではフクロゴケ属*Hypogymnia*とウスカワゴケ*Tuckneraria*が多いようである。日本の亜高山帯針葉樹林と似ている。この地方と

しては、やや乾燥した場所という印象である。

斜面の上部からはシャングリラの町外れが見えた(図3)。左手前のは陸上競技場だったろうか。中央の建物も公共施設だったと思う。いずれもチベット風の外環をしていておもしろい。中央の小高い丘の向こうには、ここからは見えないが、チベット族達がヤク(現地ではマオニューと呼ばれている)を放牧している平原が広がっている。遠方の岩山は、森林限界上で、恐らく標高4500mくらいはあるだろう。こういった山々にシャングリラの町と平原は囲まれているのだ。さて、明日はどの山に行くのだろう。期待は高まる。(つづく)。



図3. 五鳳山からシャングリラの町外れと平原を囲む山並みを望む。

ご案内 News and Announcements

第22回 青空地衣教室(千葉-内浦山県民の森)のご案内

Announcement of the 22nd JSL Outdoor School on Lichens at Uchiura-yama kenmin-no-mori, Chiba (22 Dec. 2007) / ANZAI Tadao & KINOSHITA Yasuihiro

安斉唯夫・木下靖浩：地域活性化委員会関東

・・・南房総に陽だまりと地衣を求めて・・・

今年最後の青空地衣教室は、房総半島安房小湊です。参加を希望される方は、事前に下記世話人までお申し込みください。

* * *

●日時： 2007年12月22日(土曜日)、安房小湊駅 10:10集合～14:30解散。悪天候の場合中止いたします。

●場所： 内浦山県民の森(千葉県鴨川市)

●内容： 内浦山県民の森は千葉県下初の県民の森として昭和45年に開園された歴史ある森林レクリエーション施設です。大変広い園内ですが、地衣類の観察は入り口付近で行います。

●講師： 原田浩氏(千葉県立中央博物館)

●行程

10:10 JR外房線安房小湊駅改札付近集合

10:30～14:00「内浦山県民の森」で低山地の地衣類を観察します。

14:30 安房小湊駅で解散

●持ち物： 飲み物、雨具、防寒具。昼食は園内の食堂を利用いたします。できれば、10～20倍のルーペ、「校庭のコケ(全国農村教育協会発行¥1905)」を用意されるといっそう楽しめます。

●参加費： 1000円

●申し込み先： 下記世話人宛に利用される交通機関、車の場合安房小湊駅と県民の森の間(約10分)で同乗可能な人数をお知らせ下さい。

安斉唯夫 kozaiwa@jcom.home.ne.jp

木下靖浩 ponkichi@mtj.biglobe.ne.jp

●安房小湊駅までの交通

【鉄道の例】

新宿駅7:19発特急「新宿わかしお」→(千葉駅8:09)→安房小湊駅着9:26(¥3510)
東京駅7:32発京葉線→蘇我駅8:23乗換安房鴨川行→安房小湊駅着10:08(¥2210)
千葉駅8:17発→安房小湊着10:08
安房小湊駅14:45発特急わかしお20号→蘇我駅着16:00/16:01→東京駅着16:34

安房小湊駅15:42発特急わかしお22号→蘇我駅着17:00/17:01→東京駅着17:34

安房小湊駅16:18発特急新宿わかしお→(千葉駅着17:41)→新宿駅着18:29

【車の例】

千葉から高速経由1時間半程度、普通道路経由2時間余りのようですが、連休初日のため混雑すること考えられます。富津館山道は富津まで開通しています。利用されるIC等詳細はご検討下さい。

◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、思い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：

harada@chiba-muse.or.jp (原田浩)

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.
E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp
In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA. Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 80, pp. 287-290: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 7 December 2007.

日本地衣学会ニュースレター 80号

発行日：2007年 12月 7日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2007 日本地衣学会 (©2007 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。